

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 4 部門第 1 区分

【発行日】平成 18 年 6 月 22 日 (2006.6.22)

【公表番号】特表 2005-532492 (P2005-532492A)

【公表日】平成 17 年 10 月 27 日 (2005.10.27)

【年通号数】公開・登録公報 2005-042

【出願番号】特願 2004-519831 (P2004-519831)

【国際特許分類】

E 0 6 B 3/64 (2006.01)

【F I】

E 0 6 B 3/64

【手続補正書】

【提出日】平成 18 年 5 月 8 日 (2006.5.8)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

グレージングユニット内の相対する板ガラス (18, 20) の間に配置されるのに適合されたスペーサー (300) であって、該スペーサー (300) は、フォーム材料から製造されたボディー (304) を含み、該ボディー (304) が、少なくとも 1 つの閉じられた絶縁キャビティ (302) を画定することを特徴とする、スペーサー (300)。

【請求項 2】

ボディー (304) は長さ方向を画定し、該絶縁キャビティ (302) は長さ方向に伸びる、請求項 1 記載のスペーサー (300)。

【請求項 3】

絶縁キャビティ (302) が長さ方向に連続である、請求項 1 記載のスペーサー (300)。

【請求項 4】

ボディー (304) が複数の間隔をおいて配置された絶縁キャビティ (302) を画定し、それぞれの絶縁キャビティ (302) が長さ方向に伸びる、請求項 1 記載のスペーサー (300)。

【請求項 5】

それぞれの絶縁キャビティ (302) が幅を有し、絶縁キャビティ (302) の間の空間 (314) が、いずれかの絶縁キャビティ (302) の幅と同じかまたはそれ以上である、請求項 4 記載のスペーサー (300)。

【請求項 6】

それぞれの絶縁キャビティ (302) が長さ方向に連続に延びる、請求項 5 記載のスペーサー (300)。

【請求項 7】

ボディー (304) が乾燥剤を含む、請求項 1 記載のスペーサー (300)。

【請求項 8】

グレージングユニット内の相対する板ガラス (18, 20) 間に配置されるように適合された格子バーエレメント (100) であって、該格子バーエレメントは：

ボディー (102) の高さ方向に隔てられた相対する基部壁 (103) を有するボディー (102) を有し；各基部壁 (103) はガラス板 (18, 20) の 1 つの内側の表面

に隣接して配置されるように適合される；

基部壁（１０３）の少なくとも１つに配置された接着剤（１０１）を有し；該接着剤（１０１）はボディー（１０２）を相対する板ガラス（１８，２０）の１つに接続するように適合される；

ボディー幅を画定する接着剤（１０１）を有する基部壁（１０３）を有し；

該ボディー（１０２）が、少なくとも１つの絶縁キャビティ（１０４）を画定し、該ボディー（１０２）の長さ方向に垂直な断面を見たときに、該絶縁キャビティ（１０４）が断面領域を有し、

該ボディー（１０２）の長さ方向に垂直な断面を見たときに、該ボディー（１０２）が断面領域を有し、

該ボディー（１０２）の断面積は絶縁キャビティ（１０４）の断面積よりも大きい、ことを特徴とする格子パーエレメント（１００）。

【請求項 ９】

ボディー（１０２）が複数の絶縁キャビティ（１０４）を画定し、該絶縁キャビティ（１０４）が互いに間隔を置いて配置され、それぞれの絶縁キャビティ（１０４）が長さ方向に連続に延びる、請求項 ８ 記載の格子パーエレメント（１００）。

【請求項 １０】

ボディー（１０２）が複数の絶縁キャビティ（１０４）を画定し、該絶縁キャビティ（１０４）が互いに間隔を置いて配置され、それぞれの絶縁キャビティ（１０４）が幅を有し、該絶縁キャビティ（１０４）の間の空間（１０６）がいずれかの絶縁キャビティ（１０４）の幅と同じかまたはそれ以上である、請求項 ８ 記載の格子パーエレメント（１００）。